

滋賀大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名: プロジェクト型インターンシップ(2単位)
- 実習先企業等: (株)清原
- 実習場所: 滋賀県守山市古高町 477-15
- 参加対象者: 経済学部3回生(活動時点)
- 実習期間: 8月~9月
- 実習日数: 延べ15日間

<取組の概要>

「ふくさ」の新たな可能性の発見と「ふくさ」から生まれたブランド「和奏(わかな)」を広げることを目的に、若者世代に響く「包む」アイテムを発信するための「ふくさ」の市場調査と現状調査／従来にない新たな販路の検証。「和奏」ブランドの新商品開発。

在学生のいま 経済学部

地域連携活動など(インターンシップからの卒業記念品誕生)

経済学部 企業経営学科 4回生 小関 加奈

● 何事も始めてみないと分からない

昨年の夏休みの2ヶ月間、就業力育成支援室主催の中間インターンシップに参加しました。私は、「株式会社 清原」という企業にお世話になりました。清原は襦袢や念珠といった、包むアイテムを主に製造している企業です。新たな販路の拡大、若者への襦袢の認知の向上といった仕事内容に惹かれ、参加しました。そもそもインターンシップに挑戦しようと考えたのは、その年に就職活動が始まるのが大きな理由でした。それまでは少数精鋭の環境で働けることから、中小企業で働きたいという気持ちで参加していましたが、企業の実態というものを把握していなかったため、不安が募るばかりでした。そこで、実際に働くことで中小企業を少しでも理解しようと考え、始めることにしたのです。

● 成果をあげるといふこと

私がインターンシップに参加したのは、就業力育成支援室主催のインターンシップが他と少し違うというのも理由の一つでした。今回のインターンシップは一通問という短冊ではなく、6週間という中期で行うものです。そのため、じっくり事業に取り組むことができ、また、社内の方々のコミュニケーションも十分に図ることができます。その上で、「成果」を上げることをノルマとして課されました。学生は企業で働くことで、イメージとのギャップを解消したり、社会人の働き方を学んだりすることができます。しかし、企業にとっては、学生という未熟な人材の育成を図りたい

いのですが、果たしてどのくらい大学が襦袢を注文しているのかということまでは把握が困難でした。そこで、道案内を始めとした五畿両道の大学に、電話でうかがうという仕事を行いました。この仕事から、私の仕事への姿勢が変化しました。どのようなアンケート内容にするのか、一人で考え込むのではなく、大学の先生や、清原の社長さんに相談しながら作り上げました。その結果、大学の卒業記念品の決定方法や、道が基準に特徴を見つけることができました。また、私の大学の友人に片っ端から連絡を取り、若者の襦袢の認知についても知ることができました。一人で仕事をすることはなく、多くの人々の力を借りながら物事を成し遂げる。私はこのやり方のほうが自分に向いているのだと知ることもできたのです。

● 小さな気付きから物事は動き出す

今回のインターンシップでは各大学の調査までが仕事内容でした。しかし、私はこの調査をきっかけに、滋賀大学の卒業記念品を襦袢にするという新たな目標を立てました。インターンシップの期間が終了したのちも、先生方に何度も相談し、卒業記念品を担当する学生や清原の社長と何度も打ち合わせを行いました。そして、ついに、今年の卒業記念品を完成させることができました。襦袢を彷彿とさせるような青、開きの手元部分に見える滋賀大学の校章、襦袢としての機能を備えることなく、使用するたびに母校を思い出せるような、滋賀大学オリジナルの襦袢が出来上がりました。卒業

式の日、この襦袢を受け取った清原の卒業生から、「とても嬉しい、本当にありがとうございます」との声をいただきました。これまでの積み重ねが一気に報われた瞬間でした。

初めはここまで行うことを予想すらしていなかったインターンシップ。しかし、多くの人々の声を聞き、また様々な人々を少しでも多く巻き込んだことで、些細な希望を実現することができるまでに至りました。この経験は現在の就職活動や、生き方にも大きく役立っています。小さな気付きを追い上げ、ひたむきに実現させていく過程の大切さを胸に刻み、これからは様々な物事に取り組みたいと考えています。

● 「お願いする」という一歩

清原から与えられた仕事内容には、「卒業記念品調査」というものがありました。襦袢は卒業記念品として注文されることが多

式の日、この襦袢を受け取った清原の卒業生から、「とても嬉しい、本当にありがとうございます」との声をいただきました。これまでの積み重ねが一気に報われた瞬間でした。

初めはここまで行うことを予想すらしていなかったインターンシップ。しかし、多くの人々の声を聞き、また様々な人々を少しでも多く巻き込んだことで、些細な希望を実現することができるまでに至りました。この経験は現在の就職活動や、生き方にも大きく役立っています。小さな気付きを追い上げ、ひたむきに実現させていく過程の大切さを胸に刻み、これからは様々な物事に取り組みたいと考えています。

広報しがだい Vol.40 2014年7月

<取組の具体的な内容>

若者とふくさとの関係を調査するために、大阪市内の百貨店におけるヒアリング調査を実施、ふくさの認知度・活用度、価格、入手経路等の調査を実施しました。また、卒業記念品としての「ふくさ」の可能性を調べるために、関西地区を中心とした大学に卒業記念品の現状調査とデータ化を行い、今後の販売戦略資料としました。

その後、卒業記念品のモデルケースとして、自学において担当部局と折衝を重ね、オリジナルカラーに学章をデザインした「ふくさ」を提案するとともに、若者向けに「ふくさ」の使用方法を記載したしおりを制作しました。実際に、平成25年度の経済学部卒業記念品として採用されました。

奈良女子大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名: キャリアデザイン・ゼミナール[探求型職場体験](1単位)
- 実習先企業等: 奈良の伝統産業・地場産業企業(製造業)全5社
- 実習場所: 奈良市他
- 参加対象者: 全学部、全学年
- 実習期間: 前期9月、後期(1月,2月)
- 実習日数: 2日/1企業

<取組の概要>

地域文化を広く学ばせるために、複数の地場産業に対して、2日間という短期インターンシップを設定し、学生は複数の企業を経験することができる。大学において安全やコンプライアンス教育を実施。実習終了後、レポートを提出させ要件を満たした学生に1単位を付与する。



【検品・梱包作業】



【商工会の方との名刺交換】

<取組の具体的な内容>

(写真、企業実習事例とも株式会社カキモトでの例)>

事前学習1:「ビジネスマナー」電話応対、依頼状・礼状の記載、ビジネスマンと時間、基本的な所作。

事前学習2:「企業コンプライアンス」情報の取扱い(インサイダー、知的財産、個人情報)、贈答、接待の取扱い、従業員と地域社会の関係など。

事前学習3:「学生による事前調査」企業実習前の課題提供。

事前学習4:受講生全員による実習先地場産業企業の見学。(見学のみの企業を含め全7社)

企業実習1日目:ギャラリー清掃、朝礼出席、検品・梱包作業、キーホルダーデザインⅠ。

企業実習2日目:ギャラリー清掃、接客実習、商品説明、キーホルダーデザインⅡ。「キーホルダーデザイン」は若い学生の感性デザインが欲しいという企業要望。

事後学習1:「報告書作成」一か所提案(ディスプレイ戦略や作業動線など)書を作成し、企業へ提出。

事後学習2:「全体報告会」様々な実習体験を受講生同士で相互紹介する。

滋賀県立大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名：インターンシップB(2単位)
- 実習先企業：製造業
- 実習場所：滋賀県
- 参加対象者：3学年
- 実習期間：8月25日～9月5日
- 実習日数：10日

＜取組の概要＞

大学と協定書をかわして実施するインターンシップで、単位認定をおこなっている。事前研修、マナー講座、事前企業研究レポート、事後報告書、報告会も含めて、キャリア教育の一環である。



＜取組の具体的な内容＞

就業実習内容は、ポンプの製造組立実習、ゴムの浸漬試験、ステーターの浸漬試験、接着界面の観察等である。一つの製品を生産するには、各部門の連携の必要性を知った。また、大学で学んだ走査型電子顕微鏡の使用方法を学んだ。今後の目標設定ができた。

聖泉大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名：インターンシップA(2単位)
- 実習先企業等：社会福祉法人かすみ会つばきはらファクトリー
- 実習場所：滋賀県彦根市
- 参加対象者：人間学部2年生
- 実習期間：2月～3月
- 実習日数：10日

<取組の概要>

就労移行支援及び就労継続支援を行っている社会福祉事業所にて10日間の実習を行った。利用者の方と共に、自主製品を製造したり、作業を行ったりした。社会福祉施設の現場を体験するとともに、社会のなかで障がいをもたれている方たちの就職活動の難しさについても学び、社会的課題にも踏み込んだインターンシップとなった。社会福祉施設で職員として働くことの責任と大変さ、職場環境の大切さなどを身を以て学ぶことができたと同時に、障がいをもたれている方が社会でどのように生活していくのが良いのかなど、現在の制度や社会の理解の必要性に気づくことができた。

1日のスケジュール



インターンシップ先で製造した製品

8:00(職員朝礼に参加)	13:00(作業開始)
朝礼後	
送迎の付き添い	14:30休憩(10分休憩)
9:30(利用者様の朝礼)	14:40(作業再開)
ラジオ体操終了後、掃除し作業	16:00(作業終わり)
10:30(10分休憩)	16:00過ぎ頃(お見送り後明日に向けての準備)
10:40作業再開	16:30頃(実習日誌の記入)
12:00昼休憩	17:00実習時間終了

<取組の具体的な内容>

- 主に、利用者の方と一緒にボルトの組み立てや贈答用タオルの箱詰め、自主製品の製造などの作業
- 利用者の方の送迎に付き添い
- 利用者の方の就職面接練習の付き添い

聖泉大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名：インターンシップB(2単位)
- 実習先企業等：総合リゾートホテル ラフォーレ琵琶湖
- 実習場所：滋賀県守山市
- 参加対象者：人間学部3年生
- 実習期間：8～9月
- 実習日数：10日

<取組の概要>

滋賀県にあるリゾートホテルのスポーツセンター受付業務および併設されているプラネタリウムの案内・操作に携わることにより、ホテル業で大切にされていることや留意点、マナーや接遇などお客様へのサービスがどのようになされているかを体験し、企業研究への視点につなげている。



館内案内業務の様子



インターンシップの様子

<取組の具体的な内容>

- 新入社員研修と同様の接遇講習の受講
- ホテル内のスポーツセンターでの業務
 - ・体育館での受付業務
 - ・ジム・プールでの接客
 - ・シャワールーム・ロッカーなど掃除
- プラネタリウムでの業務
 - ・プラネタリウムの機械操作
 - ・会場内アナウンス
 - ・プラネタリウム会場への案内
 - ・終了後のお客様の誘導

長浜バイオ大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名: インターンシップ実習(1単位)
- 実習先企業等: キンシ正宗株式会社
- 実習場所: 京都府京都市伏見区
- 参加対象者: 全学3年次生
- 実習期間: 8月25日～9月12日 ● 実習日数: 15日間

<取組の概要>

インターンシップ実習は3年次配当のキャリア科目として開講。卒業後の進路を見据えた職業観・社会観を醸成することを目的として、企業や研究機関における一定期間の就業体験と事前・事後学習を行っている。

キンシ正宗株式会社での実習では、清酒醸造の実務や酒類の詰口・仕上げ作業全般をおこない、発酵産業の現場実習を通じて『ものづくり』を体感する。

インターンシップ実習の流れ

マッチング	・教員による全員面談
事前学習	・グループディスカッション ・受入企業の講話、マナー講習等
就業体験	・清酒醸造の実務体験(15日間) ・教員による中間指導訪問
事後学習	・ふりかえりレポート作成 ・グループディスカッション

インターンシップ
実習実行委員会
による運営・指導



事前学習でのグループディスカッション

<取組の具体的な内容>

・事前学習(4日間、90分×13コマ)

実習の目的や課題を明確化するための講話やグループディスカッション、ビジネスマナー講習、リスクマネジメント講習を実施している。グループディスカッションは10人程度の少人数でおこない、各グループには指導教員がつく。

・就業体験(15日間)

1) 清酒醸造の実務を体験する。醸造祈願祭、洗米、浸漬、蒸米など、製造工程全般の見学と作業をおこなうほか、酒瓶の洗浄、ラベル貼り、包装などの販売に関わる作業も体験する。

2) 町家博物館に併設する地ビール工場を見学し、ビール箱の清掃やビールの瓶詰をおこなう。

実習中は毎日、企業担当者に実習簿を提出し、コメントをいただく。また期間中に担当教員が現場を訪問し、中間指導をおこなう。実習終了後は、ふりかえりレポートを作成する。

・事後学習(1日間、120分)

就業体験の目的がどのくらい達成できたかをふりかえり、学生同士がグループディスカッションで共有することによって内容を深め、将来の進路について目標設定する契機とする。

清酒醸造の実務体験



京都外国語大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名：インターンシップ2(1～4単位)
- 実習先企業等：野村証券(株)
- 実習場所：京都市下京区
- 参加対象者：全学部全学科
- 実習期間：夏期休暇中(8月上旬～9月中旬)
- 実習日数：原則5日以上で4週間程度を上限とする

<取組の概要>

国内インターンシップ制度として正規の教育課程として設置している。実習先は本学の特色を活かせる実習先を幅広く用意している。



<取組の具体的な内容>

金融経済及び証券業への理解を深めることを目標に実習を行う

◆証券に関する知識の学習

日本経済新聞の読み方講座、金融・為替の仕組み、等

◆支店内見学・業務体験

法人課、WM課、企業金融課、等

◆店舗見学、証券取引所見学、地元金融機関訪問

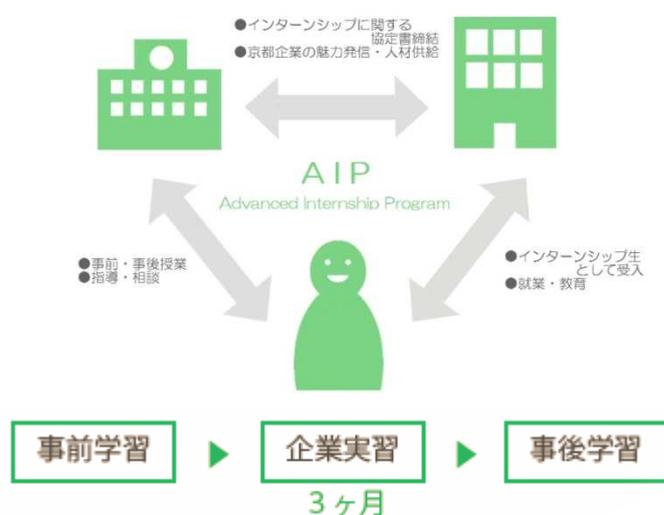
◆グループディスカッション等の成果発表会

京都学園大学におけるインターンシップの事例

- プログラム名:アドバンスト・インターンシップ・プログラム(AIP)
- 授業科目名:企業実務A、B、C(12単位)
- 実習先企業:株式会社中村藤吉本店
- 実習場所:京都府宇治市
- 参加対象者:経済・経営・法学部3回生
- 実習期間:5月～7月
- 実習日数:約50日(実日数)

<取組の概要>

3回生を対象とした、京都の企業で3か月間の企業実習に取り組む教育プログラム。事前学習では企業研究や実習に向けた目標設定、事後学習では実習での学びの振り返りを行う。本格的な実務経験により学んだことを、大学での学修へとつなげることを目指す。



<取組の具体的な内容> ※実習内容は各企業によって異なる

株式会社中村藤吉本店におけるインターンシップでの実習内容(2014年度):
製造部における容器・調理器具等の洗浄、製造の補助業務、清掃業務

- 【1か月目】製造部における工程全般を把握する
- 【2か月目】主担当業務内における業務改善の考案し、実践する
- 【3か月目】製造部における生産効率を上げるため、主担当業務を中心としてできる方策を考案し、実践する

【実習期間中の学修】

- 業務日報の作成(実習日ごと)
実務内容やそこで気づいたことなどをまとめ、受入担当者から指導・助言をもらう
- 科目担当教員による面談(週1回)
業務日報をもとに実習状況等の確認や実習段階に応じて指導を受ける
- 実習生およびプログラム科目担当教員による情報共有会(月1回)
実習生全員での実習状況の報告・共有、科目担当教員からの指導等により、実務経験と大学での学修との接続を図る

【実習終了後】大学で開催する実習成果報告会でそれぞれの学生が成果報告を発表する

京都産業大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名：インターンシップ3(4単位)
- 実習先業界：旅行業
- 実習場所：京都府
- 参加対象者：全学部3年次生
- 実習期間：8月～9月 ● 実習日数：2週間(10日間)

<取組の概要>

カウンターにおける窓口業務のみならず、職場旅行や招待旅行の企画営業や地域振興等、旅行業＝窓口業務というイメージに留まらず、実際の現場で行われている数多くの業務を体験することで、学生が「働く」を考えるきっかけにする。※平成26年度169名受講。

事前学習(15コマ)



マナー研修の様子

事後学習(5コマ)



全体報告会の様子

<取組の具体的な内容>

事前学習(15コマ)・実習・事後学習(6コマ)という体系的なプログラム。事前学習では、就業先に関する事前研究・マナー講座・人権研修・情報倫理等を行い、事後学習では、「働く」を幅広い視野で捉えられるよう、就業体験の成果についてグループディスカッションや全体発表会等を行い、実社会において「働く」ということを考えるきっかけ作りを行っている。(就業体験の具体的な一事例を以下に紹介します)

就業体験		
	「午前」実習内容	「午後」実習内容
1～2日目	資料ファイリング、割引証記入、郵送物作成、団体旅行変更資料作成	保険入力、保険料請求書作成、出入国審査等資料確認、封筒スタンプ押印
3～4日目	旅行会社向けパンフレット作成、企画作成補助業務	新プログラム説明書作成、資料整理、振込確認
5日目	個人旅行業務自宅訪問、同行営業	同行営業、仕分け作業
6～7日目	営業同行	資料作成
8日目	資料作成、パワーポイント作成	説明会同行、打合せ、保険加入新規登録
9日目	空港斡旋業務同行	空港斡旋業務同行
10日目	帰着後挨拶	飛び込み営業、パワーポイント作成、保険請求書作成
11日目	パワーポイント作成、営業同行	旅券手渡しと支払、スタンプ押印、入金確認、封筒作成
12日目	海外保険新規加入登録、請求書記入、資料保管整理	ビザ取得条件調べ、リスト追加記入、PR資料作成
13日目	日程表作成、営業同行	プランニングのための観光地調査、短期留学しおり作成

京都産業大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名: スタートアップ・インターンシップ(2単位)
- 実習先企業等: 製造業
- 実習場所: 京都府
- 参加対象者: 全学部1・2年次生
- 実習期間: 2月16日～20日 ●実習日数: 5日間

<取組の概要>

金属板を加工する技術を活かして、試作から量産まで幅広く事業展開している会社で、事前に会社を訪問し、「社員インタビュー」を2度行い、その中で感じた企業の魅力を全体発表会で発表後、5日間の実習体験を行う。実習体験においては、社員の方の指導を受けながら、実際のモノづくりの現場での実習を行う。また、自身で設計した設計図に基づき、製品を製造する。※平成26年度:30名受講。



全体報告会の様子



インターンシップの様子

<取組の具体的な内容>

京都を中心とした中堅・中小企業における、「働きがい」「働く場としての魅力」を学生自らがインタビュー調査し、『魅力発信レポート(後日本学HPに全社分掲載)』にまとめ発表した後、見学型のインターンシップ(シャドウイングを主とする就業体験)を春期休業期間(2月中旬以降)に3～5日間行い、『働く場＝キャリア形成の場』を体感することで、中堅・中小企業での就業体験は世の中に魅力ある優良企業があることを知り、学生の視野を広げてキャリア形成の選択肢を増やしている(就業体験の具体的な一事例を以下に紹介します)。

就業体験 実習内容	
1日目	完成品の点検、金属ラックの設計
2日目	金属ラックの製造、鉄パイプの切断、金属部品の結合
3日目	金属ラックの製造、CAD操作、レーザー加工
4日目	キーホルダーの図面製作①、レーザー加工
5日目	キーホルダーの図面製作②、プレゼンテーション

天理大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名：インターンシップ(2単位)
- 実習先企業等：大和高田公共職業安定所
- 実習場所：奈良県大和高田市
- 参加対象者：全学部全学年
- 実習期間：8月18日(月)～29日(金)
- 実習日数：10日間

<取組の概要>

学習目的の明確化・意識の向上、高い職業意識の形成および自立したキャリア・能力の具現化を目的とした「奈良県大学連合インターンシップ制度」による取組である。

大和高田公共職業安定所での実習では、所長室、総合受付、会議室、専門相談部門、職業訓練実施施設、求人部門、職業相談部門等で実習を行った。



<取組の具体的な内容>

ビジネス社会の基礎知識やビジネスマナー等の講義や演習を事前研修として行い、レポートを提出させた後、実習に取り組みさせている。

大和高田公共職業安定所での実習では、就業体験を通して、自分の将来における職業選択等に役立つようにできるだけ多くの業務を体験できるプログラムを実施した。

まず行政機関であることから、最初に個人情報保護法や公務員倫理法、服務規程などを十分に理解をさせることから始め、その後、様々な部門で実習を行った。

総合受付での実習では、予約者への対応などを体験させ、接遇の基礎を学ばせた。その後、専門相談部門や職業相談部門で、ファイル整理やデータ入力・管理等の業務を体験させることにより、後方業務の重要性を体感させた。

また、職業訓練実施施設や求人部門では、説明会や相談面接会等のイベントの手伝いや事業所開拓に同行させることによって、民間企業の仕事場も目にする機会を与えた。

実習終了後は、事後研修会として体験発表などのプログラムを行い、実習での学びを振り返らせ、定着に結びつけた。

奈良佐保短期大学におけるインターンシップの事例

- 授業科目名: インターンシップ(1単位)
- 実習先企業等: 大阪製罐株式会社(製造業)
- 実習場所: 大阪府東大阪市など
- 参加対象者: 生活未来科ビジネスキャリアコース1年生
- 実習期間: 2月2日～6日
- 実習日数: 5日

<取組の概要>

事前事後学習、企業内見学と社長による事業説明、通常業務、営業同行、生産現場での作業および新製品提案のプラン作成とプレゼンテーション。「インターンシップ科目」直後の週に「ビジネス実践演習Ⅰ」科目を受講し、企業の課題発見・解決プログラムで実習成果の応用実践へ展開する。



生産現場実習: 完成品までのプロセス



課題提案: 企業キャラクターのブランド化

<取組の具体的な内容>

単位認定(1単位)型1回生対象科目。通常業務だけではなく、菓子用容器の新製品提案プラン作成の課題を学生に提示し、期間外の指定期日に提出を義務付け、プレゼンテーションの講評を行う。実習現場にはインターンシップ担当講師が常駐し、企業担当者とリアルタイムに連携を取りながらプログラム管理を行っている。

- 1日目 事前学習・コミュニケーション(ビジネス処理・応対・マナー)
- 2日目 経営者による訓話・事業説明
- 3日目 現場実習1 取引先への営業活動
- 4日目 現場実習2 生産現場と事務部門での実務
- 5日目 課題提示、課題解決・発表および事後学習